

2023 GR86/BRZ Cup Rd.1 スポーツランド SUGO 現地レポート

CHIBA SUBARU Racing の初戦

GR86/BRZ Cup プロフェッショナルクラスチーム参戦。準備から決勝当日までをまとめました。

開催日時：2023年5月11日～5月14日

場所：スポーツランド菅生

チーム名：TeamTakuty CHIBA SUBARU Racing

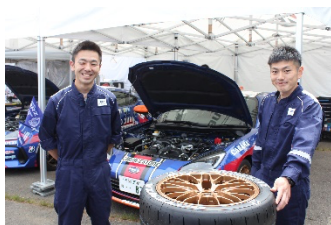
参戦車両：SUBARU BRZ 87号車

ドライバー：久保 凜太郎

メカニック：石橋 裕也（習志野店） 矢作 直之（松戸店）



5月12日(金) フリー走行



前日、作業の拠点となるサービステントを設営し、いよいよ本格的にレースウィークに突入した12日(金)。この日は予選直前の**フリー走行(占有走行)**が2回行われました。実はこのフリー走行日が、メカニックにとって一番長く忙しい日です。この日は7:00からサーキット入り。まず1回目のフリー走行に向けてタイヤの準備や各部のセッティング調整・油脂類の確認交換などが行われます。87号車の

担当は石橋・矢作と、宮城スバルさんより参加した内海くんの計3名が担当することとなりました。メカニック達は87号車のチーフメカニック 秋元さんの指示を受けながら、慣れない作業をしっかりと一つずつこなし、フリー走行に向けて準備を整えていきます。9:00頃、1回目のフリー走行に向けて車両・工具・タイヤなどをピットへ移動開始。メカニックの顔つきも一段と真剣に・・・サーキットピットでの初めての作業は緊張しながらもタイヤの内圧(空気圧)管理や、タイヤ交換作業を確実にこなしていきました。1回目のフリー走行を無事に終了ドライバーの久保選手も「**車両のセッティングはまだまだやることが多そうだけど、良いタイムが出ている。2回目の走行ではレース用のタイヤで各チームともタイムを上げてくると思うので、セッティング**



をしっかり整えて2日目に備えたい」と感触は良さそうでした。石橋メカニックからは「**指示された作業をしっかりとこなして、ドライバーが安心してアタックできるように頑張ります」と**力強く言葉が返ってきました。2回目のフリー走行では1回目からサスペンションの調整やタイヤの交換などが行われ、計2回のフリー走行が無事終了。87号車 久保選手は10番手タイムという良い位置で終了し、同じチームの88号車 井口選手においては、なんとトップタイムで終了。2台とも予想を上回る結果となり、BRZとドライバー&スタッフのポテンシャルの高さを感じた1日でした。最後に車検。ちょっとしたトラブルはありましたが、問題なく通過。明日の予選に向けて着々と準備を進めていくことができました。



5月13日(土) 予選

この日は夕方から雨予報となっており、予選開始の 13:20 頃の天気心配されましたが、何とか雨は降らずに行けそうと判断。朝からメカニックたちは昨日のフ



リー走行を終えた BRZ の整備に追われました。昨日非常に良い手ごたえの BRZ をさらに熟成させるべく、各部のセッティングを開始。3 日目になり率先



して作業をこなすメカニックの顔つきは既にレースメカニック。空いている時間があれば、マシンをきれいに拭き上げたり整備だけではなく、すべての愛情を注いで予選に向けてマシンを完璧に仕上げてくださいました。10:00 には使用するタイヤのマーキング(登録)に向かい、いよいよ予選に向けてピットに移動。今までチームの雰囲気づくりの為、明るく接してくれていた二人のドライバーも一気に真剣モードに



突入し精神統一。この瞬間、結構好きです。本当にカッコいい・・・

このレースの予選時間はたったの **15 分 = ぶっつけ本番の 1 本勝負**となります。ピットではドライバーの緊張感がスタッフ全員に伝播し、私語や笑いがなくなる中、アタックのタイミングを計ります。刻々と時間が過ぎていき、速い車は 35 秒前半のタイムをたたき出し始めました。そして残り時間 5 分を切った頃、チーフエンジニア

の佐野さんが動き出します。ここしかない！という絶妙なタイミングでアタック開始の指示。1 周目にタイヤを温め、そのまま 2 周目。2 台の BRZ は 3 周目に今までとは違うスピードでホームストレートを立ち上がり、アタック開始。息

をするのも忘れるくらいの緊張の中、ピットで画面を見つめる……。しばらくして 88 号車がコントロールラインを通過。直後に **No88 1'35"635 Pos5**と表示。そして 87 号車通過。**1'36"142 Pos17** で予選が終了しました。この緊張感の中で、たった 0.5 秒の差。この僅差でも順位が大きく変わるレースの難しさ！！改めて、我々の作業の重さを感じました。それでもこの状況でドライバー二人は素晴らしい走りを見せてくれたし、メカニックも本当に良い仕事をしていました。終わってから色々なチームのスタッフやドライバーが「**2 台とも速いね～**」なんて声をかけてくれました。



コンマ数秒を争うレースの世界では、タイヤの空気圧一つをとっても 0.1 キロのズレでドライバーのフィーリングが変わり、タイムが変化します。今回、タイヤの管理を中心に積極的に作業していた**矢作メカニック**もこの重要さを痛感したようで、1 回 1 回慎重にデータをメモ。しっかりと管理してくれていました。**矢作くん good job !**



5月14日(日) 決勝

7:00 頃サーキット入りしたスタッフは、前日夜に降った雨の影響を確認しながらテントに……。路面は思ったよりも濡れている状況でしたが、時折日差しも出ている中、プロクラスのスタートは 11:00 過ぎを予定。そのころには路面もドライに変わっていると予想できる天候でした。前日の予選終了後より車両はサーキットで保管されます。これはレース本番に向けて不正がないようにする意味が込められていて、主催者側に車両を預けます。8:00 車両保管解除のアナウンスと共に、メカニックは車両をテントへ移動。泣いても笑ってもこの後の決勝で第一戦のすべてが決まります。テントに戻った車両を 3 名のメカニックは愛おしげにメンテナンスを続けます。9:00 過ぎドライバーの二人が、いつもと変わらぬ優しい表情でテントへ登場。ここでちょっとした事件が発生。直前に行われたクラブマンクラスの決勝。順調に走行していたと思われた瞬間、クラッシュが発生。赤旗中断となり、暫くすると隣のチームの BRZ がフロント部分を損傷した状況で運ばれてきました。それだけではなく、富士スバルさんがサポートしている BRZ315 号車は R ガラスが割れるほどの損傷を追っている状況。「**SUGO の魔物**」という言葉がある通り荒れるレースとなりました。それでもドライバー同士情報を交換しつつ、着々と決勝の時間が近づいていきます。



このあたりから少しずつスタッフやドライバーの表情が、真剣モードに変わっていきます。この日、ドライバーより先に口数が減ってきたのは、メカニックだったと思います。昨日の予選後、久保選手は本当に悔しそうにしていました。それを間近で見ていた我々は、今日にかかる久保選手の思いと、プレッシャーを既に感じていたのかもしれない。それでも最後まで明るく雰囲気盛り上げてくれる久保選手・井口選手。

チームの雰囲気は最高の状態で決勝を迎えることが出来ました。もちろん、もっとも後押ししてくれたのは、現地まで応援に駆けつけてくれた**お客様や千葉スバル社員のみみな**です。この時、私自身もお客様や社員から、応援の声をかけてもらい「**少しでも上の順位でゴールしなければ**」と、あらためて強く感じました。

アナウンスと同時に 2 台の BRZ はコースにむけて動き出します。コースインし、グリッドの離れた位置に止められた 87 号車と 88 号車に対し、各担当メカニックが最後の調整を開始。ドライバーも集中モードからレースモードにギヤを上げます。フォーメーションラップスタート前、それぞれの車両でドライバーとグータッチを交わし、我々メカニックのやれる事はすべて終了。後はドライバーの二人に託します。いよいよ決勝スタート。ここからメカニックの仕事はピットのサインボード掲示係に。ドライバーがピット前を通過するときに、残りの**ラップ数(周回数)**と**ポジション(順位)**などを伝えるためのボードを出す仕事です。

気づけばシグナルブルー。87 号車は素晴らしいスタートで、直後に前の車両 2 台を追い詰めます。

1 周を終えてコントロールラインを通過する時、運転席側のフェンダーライナーが外れている状態で通過。あらためてワンメイクレースの過酷さを感じながら、何とか無事にレースが終わるよう祈るスタッフ。そして今にも外れそうなフェンダーライナーを引きずったままレースを続ける 87 号車。途中で外れて黄旗になったり、他車と接触してペナルティになったりしない事を祈る私。そんな中、気づくと 88 号車 井口選手が 3 位へ浮上。久保選手も負けずに 15 位へ 2 台 UP。何とか大きなクラッシュもなく残り 1 周(ファイナルラップ)へ。ボードを表示していたメカニックもボードから手を放し、2 台の BRZ を迎え入れるためコースに向かって手を振る準備。間もなく、1 位の 293 号車 86 が見えその後ろに大きくピット側にラインをとる 88 号車 BRZ が 3 位でフィニッシュ。第 3 集団の後方で 87 号車も無事にチェッカー。最後の直線で 1 台抜かれてしまいましたが、予選よりポジション UP の 16 位でフィニッシュとなりました。





レースを終えて

今回、このプロジェクトを立ち上げ、皆様のご協力で何とか形にでき、この第一戦を無事に終えることができました。



本当にありがとうございました。今回の結果を一言でいうと・・・**「ほんとに悔しい!!」**レースに勝つことの難しさ、そして改めてワンメイクレースの過酷さを思い知らされました。このレースを終えて 87 号車・88 号車ともにボコボコでキズだらけの状態です。車の性能が拮抗する中、ドライバーが**如何に安心してアクセルやブレーキを踏めるか？**これは我々メカニックの仕事だと本当に感じました。今回店舗メカニックが参加するにあたり、私からはこの言葉だけを言い続けました。**「俺たちが本気でやる。そして愉しんでやる。一つ一つの作業を丁寧に正確に実施して、ドライバーに託す!!」**今回参加の石橋くん・矢作くん。そして東京スバルの松本くん・アサドルくん。宮城スバルから参加の三浦くん・内海君。本当によく頑張ってくれました。ドライバーの悔し涙を見た時、私自身**「もっと出来ることがあったのではないか？」****「もっともっとレースを勉強しないと・・・」**と強く感じました。

次回、第 2 戦は 6 月 11 日大分県のオートポリスです。87 号車の担当として**山口メカニック(習志野)**と**武田メカニック(成田)**の 2 名が参加してくれます。第 1 戦の反省を踏まえ、しっかりと作業して結果を残せるように精一杯頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いたします。

87 号車は、5 月 25 日まで新港店でそのまま展示予定です。26 日以降は少しずつ修理をしながら、出来る範囲で 28 日頃まで展示を続ける予定です。

28 日には、**第一戦報告会**を予定しております。お時間ある方はぜひご覧ください。車は思っている以上にボコボコです(笑)しっかり直して次戦に向けて準備を進めていきます。

